



UNEP  
FINANCE  
INITIATIVE

PRINCIPLES FOR  
RESPONSIBLE  
BANKING

# PRINCIPLES FOR RESPONSIBLE BANKING

Key Steps to be Implemented by Signatories

日本語参考訳

July 2019

PRINCIPLES FOR RESPONSIBLE BANKING  
Key Steps to be Implemented by Signatories



責任銀行原則は、原則を効果的に実施し、銀行がそのインパクトと社会への貢献を継続的に改善できるようにするために、三つの主要なステップを踏むことを銀行に求めている。

主要なステップとは、インパクト分析、目標設定と実施、説明責任であり、本文書でそれらが概説されている。

以下に概説する要件は、大半の銀行が現行の取り組みを大幅に強化しなければならないこと、また、世界的な枠組みである責任銀行原則が立ち位置や事業環境が非常に異なる銀行の集合であることを勘案し、要件を完全に満たすまでに4年の期間を設けている。仮にこれらの要件を満たしていない場合、国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)事務局とバンキング・コミッティは署名機関と連携し、サポートやガイダンスを提供する。

継続的かつ不十分な説明のもとで改善が見られない場合は、署名機関から除名される可能性がある。

署名機関は必要なステップを実行するにあたり、多くのサポートを得ることができる。責任銀行原則の署名機関となり、UNEP FIの一員となることで、共に前進することを約束した銀行のコミュニティに参加し、組織化されたピア・ラーニング、専門家がサポートするワーキンググループ、トレーニング、ツール、定期的なフィードバック、専門家のアドバイス等を受けることができる。

0yr

1yr

2yr

3yr

4yr



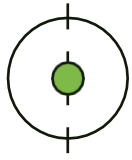
責任銀行原則(およびUNEP FI)の署名機関になる。



年次報告書のサイクルに沿って、署名日より起算して18カ月以内に最初の、その後は毎年、責任銀行原則に関する報告と自己評価を公表する。



署名から4年以内に、本文書に概説されているインパクト分析、目標設定と実施、説明責任に関する必要なステップを完全に実施するようにする。



## Step 1: インパクト分析

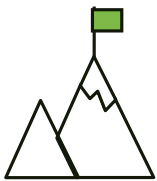
署名銀行が、社会、環境、経済に重大なポジティブ・インパクト（好影響）とネガティブ・インパクト（悪影響）を及ぼしている状況を分析する。その上で、銀行が最大のポジティブ・インパクトをどこで実現し、重大なネガティブ・インパクトをどこで低減することができるかを特定する。

銀行が業務を行っている範囲において、社会、経済、環境に対して潜在的に最も重大なポジティブとネガティブのインパクトを特定するために、インパクト分析を実施する。インパクト分析においては、銀行の中核事業領域が網羅されていなければならない。これは、銀行事業を展開している主要な地域における顧客セグメント、提供する商品やサービス、融資先のセクターやプロジェクト場合によっては技術などにより定義される。分析に際してはNGOなどの市民社会を含むステークホルダーと関わることを推奨される。

インパクト分析で考慮すべき要素:

- 特定のセクター・技術・地理的な観点からみた銀行の活動規模
- 事業を展開する国や地域での持続可能な開発に関する最も重要な課題や優先事項等の事業環境
- 特定された社会的、経済的、環境面におけるインパクトの規模と程度および重要性

これらの分析に基づき、ポジティブ・インパクトを増加させ、ネガティブ・インパクトを低減させるための戦略的機会を特定する。



## Step 2: 目標設定と実施

SMARTの目標を設定し、銀行が特定した重大なインパクトに対処し、その達成に向けて努力する。

### 意欲的な目標を設定する:

潜在的に最も重大なポジティブとネガティブのインパクトを及ぼす分野の少なくとも2つに対応する目標を最低2つ設定し公表する。設定する目標は、持続可能な開発目標、パリ協定の目標、その他の関連する国際的、国内的、地域的な枠組みに適切に連動し、それらへの貢献が明確に推進されるような目標である必要がある。目標は、具体的（Specific）で、測定可能（Measurable）で（定量的または定性的）、達成可能（Achievable）で、関連性（Relevance）があり、期限が定められている（Time-bound）必要がある（SMART）。

設定した目標に向けて取り組む中で派生したと考えられるネガティブ・インパクトを特定し、実行可能な限り、それらを緩和するための措置をとるべきである目標を改定し、個々のペースで追加的な目標を設定することができる。ただし、4年目以降には、任意の時点で最低2つの目標を実行すべきである。

### 設定した目標に向けて取り組む:

中間目標等を設定し、設定された目標を達成するために必要なアクションを定義し、実行する。進捗状況を測定しモニタリングを行う手段を確立する。目標の達成状況と必要に応じた是正措置などを確認しそれらに対して責任をもつガバナンスおよびモニタリング体制を整備する。



## Step 3:

### 説明責任

既存の報告書に、責任銀行原則をどのように実施しているかを記載する。原則実施における進捗状況について第三者保証のついた評価を公表する。

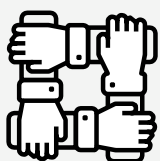
#### 原則の実施に関する進捗状況を示すことで（環境、社会、経済への）インパクトや貢献について透明性を確保する。

責任銀行原則の実施状況、設定した目標、進捗状況について報告する。プラスとマイナスの両面における社会全体への貢献について透明性を保つ。目標設定後は、計画された行動を実行し、目標の達成に向けた前進を示す。追加で責任銀行原則専用の報告書を作成する必要はなく、必要な情報は既存の公開情報に含めればよい。

#### 要件を満たしているかどうか自己評価し、それに対して保証を得る。

「報告・自己評価テンプレート」では、インパクト分析、目標設定、実施状況、説明責任に関して求められるステップの実施状況を自己評価する。署名機関は保証機関から自己評価について限定的な保証を受ける必要がある。これは、保証のついた既存の報告書に含めることによっても行うことができる。第三者保証が可能ではない場合、第三者レビューを代用することができる。

署名機関の個別報告をとりまとめ、UNEP FIが2年ごとに全体的な進捗状況を公表することを通じて、署名機関は見直しを行う。



### 責任銀行原則のガバナンスとその概要

UNEP FIの年次総会の一環として、責任銀行原則の署名機関は2年ごとに、枠組みの見直しおよび改訂、あるいは必要に応じて原則自体に対する提案事項などを討議する。原則及び枠組みのいかなる変更も、UNEP FIバンキング・コミッティーの提案を受けて、署名機関の投票により決定されなければならない。バンキング・コミッティーは、そのような改定に際して、市民社会を含む関係するステークホルダーと協議する。

## 責任銀行原則に関連するその他の資料:

- [銀行のCEOが本原則にコミットするために署名する署名テンプレート](#)
- [報告と自己評価テンプレート。銀行が透明性と説明責任へのコミットメントを果たすための指針となる。](#)

## 詳細:

ウェブサイト:

[www.unepfi.org/responsiblebanking](http://www.unepfi.org/responsiblebanking)

お問い合わせ先:

Simone Dettling | Banking Team Lead, UNEP FI

✉ [simone.dettling@un.org](mailto:simone.dettling@un.org)

あるいはUNEP FI日本事務局 [japan@unepfi.org](mailto:japan@unepfi.org)

## 補足資料:

- [署名機関となるための簡単な手引き。これは、原則の実用性や原則が期待することについて、責任銀行原則への署名を検討している機関向けに概観するものである。](#)
- [責任銀行原則の実施に役立つガイダンス、参考文献、グッド・プラクティス事例、有益なツール、フレームワーク等を提供するもの\(2019年9月に公表予定\)。](#)
- [SDGsは、銀行と投資家のためのインパクト・アジェンダに影響を与えるRethinking Impact to Finance the SDGs.持続可能なビジネス成長と長期的な企業価値の両方を推進するインパクトベースのビジネスモデルを探求。](#)



UNEP  
FINANCE  
INITIATIVE

PRINCIPLES FOR  
RESPONSIBLE  
BANKING